

# 魔法のプロジェクト 活動報告書

報告者氏名：三浦晴日

所属：千葉市立末広中学校

記録日：2023年2月16日

キーワード：デジタル音声教科書、読み書き困難

## 【対象生徒の情報】

○学年：中学1年生

○障害名：ディスレクシア

○障害と困難の内容

読み書きに時間がかかり、学習全般に遅れが生じている。また、学習したことが点数（成果）として現れず、学習に対する意欲が低下している様子も見受けられた。

## 【活動目的】

特に、読みに対する困難さを著しく感じていたため、iPadを活用しながら授業内容の理解を促し、本人の自信と学習意欲の向上を目的とした。初めに、本人とiPad学習を進めるうえで、何を目標にするか話し合い、以下の3つを設定した。

① 文章の読み取り（漢字）に対する抵抗感の軽減。

⇒「難しい漢字があると飛ばして読んでいる」という現状と、「漢字は読めるようになりたい」という本人の強い気持ちから、少しでも抵抗感が軽減できるよう、漢字練習ではアプリやアニメーションを活用して前向きに取り組めるようにする。

② 読み書きに対する苦手意識を少しでも解消し、クラスでの適応につなげる。

⇒「板書に時間がかかってしまい、授業内容を聞き逃してしまうことがある」という点からiPadのカメラ機能等を活用し、板書の負担を減らすようにする。

③ 学習面でのICT活用における代替手段の習得し、基礎学力の向上を目指す。

⇒「漢字や文章が読めても、ワークや教科書の紙ベースだと長文のため疲れてしまう」という点から、音声読み上げを活用し、本人の学習負担の軽減を目指す。また、本人の能力に応じた学習アプリを活用して基礎学力の定着を促す。

○実施期間

・2022年5月～2023年2月

（月に1～2回の通級指導教室で、iPadを活用しながら授業の復習・予習を重点的に行った。）

○実施者：三浦晴日（通級指導教室担当教諭）

○実施者と対象生徒の関係

実施者は通級指導教室を担当しており、対象生徒は通常学級に在籍しながら月に2回程度、放課後に通級指導を行っている。昼休みや通級指導教室での学習時以外の関わりは殆ど無いが、個別指導中は積極的にコミュニケーションを図り、学校での様子や困っていることなどを、その都度確認しながらアセスメントを行っている。

## 【活動内容と対象生徒の変化】

### ○対象生徒の事前の状況

- ・読み書き（特に漢字）に対する抵抗感があり、拗音や促音を含んだ単語を書くことや、助詞を理解して使い分けることが難しい。
- ・パソコンのローマ字入力や仮名入力が難しく、学校で使用している Chromebook ではフリック機能が無いため、文字入力に苦手意識がある。音声入力は目立つことが気になり活用できない。
- ・iPad を活用しながら効率よく学習を行いたいが、周りの目が気になってしまうため、教室で使うことに抵抗感がある。
- ・明るい性格で人間関係も良好なため、提出物や板書では友達に協力してもらうなど、自分なりに工夫をして取り組むなど、苦手なことにも前向きに取り組む力がある。
- ・読み書きがスムーズにできるようになりたいと強く思う反面、「周囲と違うことはしたくない」「ずるい気がする」という気持ちが大きく、学校での活用が難しい。
- ・読みに時間がかかり長文だと疲れが出るが、朝読書では好きな本を一生懸命読むことができています。

### ○活動の具体的内容

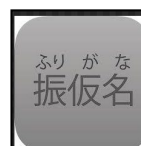
6月	OWAVES 実施（アセスメント）
7月	○前期期末テストの計画・提出物補助 ○デジタル音声教科書で国語の学習（試用後、本人の希望により正式に申請）
9月	○iPad の操作やアプリの活用方法の確認 ○デジタル音声教科書と学習アプリでの学習補填
10月	○デジタル音声教科書（本人の希望により、社会と理科も追加） ○後期中間テストに向けての学習
11月	○一人で iPad を使用して既習内容の復習や予習、漢字テスト対策
12月以降	○iPad の使用方法について本人と再検討（使用するアプリの選別等） ○使用方法を覚え、一人で学習に取り組む（教師は操作ではなく問題出題など既習内容の確認を行う） ○提出物や家庭学習の計画をアプリで管理

### ①文章の読み取り（漢字）に対する抵抗感の軽減。

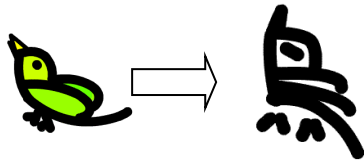
⇒難しい漢字は飛ばし読みをしているが、前後の文章から推測して一人で文章を読むことができています。  
どこまで内容を理解しているのか判断が難しいときもあるが、国語・理科・社会では「しゃべる教科書（デジタル音声教科書）」を活用して復習・予習を重点的に行った。



一人でも学習に取り組めるよう、何度も操作の練習を行った。  
初めは国語のみ使用していたが、使いやすさから理科と社会も本人から希望があり3教科実施することとなった。



本人が以前使用していたこともあり、活用方法も慣れていたため、抵抗感なく iPad 学習でも使用することができた。



Safariで漢字の成り立ちアニメ（動画）を見ることで、形だけで捉えるのではなく、意味と関連付けながら覚えられるように活用した。

② 読み書きに対する苦手意識を少しでも解消し、クラスでの適応につなげる。

⇒より授業に集中できるよう、本人の負担となっている板書ではカメラ機能を使用する予定だったが、クラスメイトと違う方法で授業をうけることへの強い抵抗感から実施することが難しかった。

③ 学習面でのICT活用における代替手段の習得し、基礎学力を伸ばす。

⇒書字の困難さによるストレスの軽減のためにも、ワークや板書、提出物の作成などでもiPadを活用して行う予定だったが、「自分の力でみんなと同じ状況で頑張りたい」という気持ちが強くなり、可能な範囲（通級のみ）でのiPad活用となった。中学校の学習を進めつつ、教科の理解度に応じて学習アプリをしながら小学校の総復習を行った。



<To do list>  
通級指導の回数が限られているためリストで学習計画を立てた。



<ビノバシリーズ>  
ゲーム感覚で学習できるため、抵抗感なく取り組めた。



<トド英語/スペルで覚える英単語>

漢字や文章読解など国語を重点的に取り組んでいたが、英語への不安感が募り始めてきたのでアプリでの学習を取り入れた。



繰り返し練習を行ったことで、小文字の「m」「n」、「p」「q」といった形の似ている文字の読み間違いや書き間違いの解決につながった。

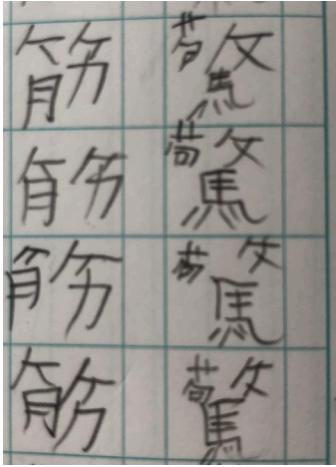
○対象生徒の事後の変化

◇4月～9月

- ・小学校に比べて中学校で習う漢字は難しく覚える量が多いため、繰り返し漢字練習を行ってもテストで点数につながらず諦める場面もあった。
- ・みんなと同じでいたいという気持ちが大きくなり、授業を抜けて通級指導教室に通うことや一人だけiPadを活用することへの抵抗感が強くなり、iPadでの学習に対して消極的になることもあったが、学習アプリ（美文字判定、NHK for School、YouTube）を活用しながら継続的に取り組むことができた。



その日の疲労感などによって難しいときにも動画アプリを活用した。  
NHK for School や YouTube は普段から活用しており抵抗感なく使用することができた。



漢字練習をしているうちに、「字のバランスが崩れてきてしまう」「ノートでの練習では書き順を確認することが手間になってしまい適当に書いてしまう」といった悩みがあったため、美文字アプリを活用してバランスや書き順の確認作業を行った。

使い始めた頃は、制限時間内に書き終わることができなかったが、練習を重ねることで時間内に書き終わることができるようになってきた。



#### ◇定期テスト対策（文章読解への配慮）

期末テストに向けて、デジタル音声教科書を活用し、本人が苦手としている国語の文章読み取りと内容理解の学習を重点的に行った。社会のワークでは、教師が問題文を読みあげることで解ける問題がいくつかあったため、テスト当日も読み上げ配慮を検討した。マルチメディアデジ教科書での文章読み上げ、全教科の読み上げ配慮を検討していたが、教室を抜けて別室受験することに抵抗感が増したため、国語のみ読み上げ配慮となった。配慮後は2点上がったが、読み上げるタイミング等が合わず、円滑に進めることができなかったのが課題である。しかし、iPadでの読み上げ機能を活用した経験から、自分で読むよりもスムーズに内容を把握することができるという点で、音の情報が取り入れやすいと本人が気付くことができた。



単語の意味や文章だけでは理解できない場合には、「調べる」や「翻訳」機能を活用して画像やネット検索ページを利用しながら学習を進めた。

画像など視覚的情報を取り入れることで学習意欲の向上にもつながった。

#### ●風化・侵食

地表の岩石は、長い間に気温の変化や水のはたらきなどによって、表面からぼろぼろになって崩れていく。このような現象を風化という。

風化によってもろく、このような風や流水のはたらきを侵食という。流水による侵食が進むと、流れに沿って谷が刻まれていく。長い時間侵食が続くと、平らな土地に深い谷（V字谷）がつくられることになる。やがて谷は広がり、土地全体も削られて次第に低くなっていく。

侵食

水や風などの外的営力により岩石や...

情報

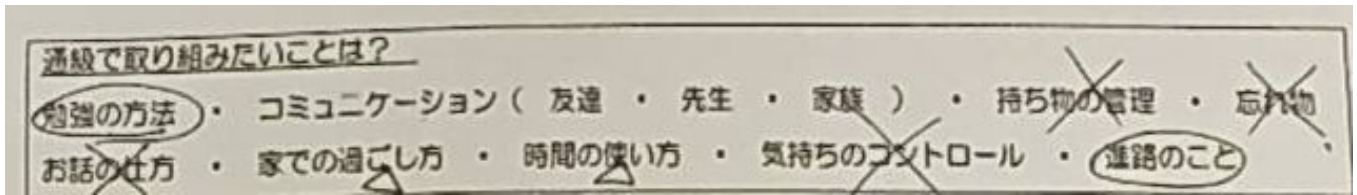
侵食とは、水や風などの外的営力により岩石や地層が削られること。浸食と表記する場合もあるが、水に「浸る」とは限らないため、学術的には侵食の表記を用いる。

Wikipedia コンテンツの問題を報告

リンク

## ◇11月以降

再度、通級指導教室での目標や目的を明確にするため、生活の振り返りシートをもとに本人と確認を行ったところ、「勉強の方法が分からない」という苦手意識を強く感じていた。また、なかなか本人が期待する学習の成果が思うようにならなかったこともあり、進路についても不安を感じていた。



しかし、9月前後は「勉強が難しい」「テストの点数が伸びない」など自信のない発言が多くあったが、学習を継続的に取り組んでいくなかで「勉強を頑張りたい」「提出物を出せるようにしたい」と前向きな姿勢が今まで以上に見られるようになっていった。また、iPadの学習アプリは一人でも操作ができるようになり、通級指導教室で行っていた授業の予習では、教科書の内容を理解し、練習問題では正確な解答が増えた。

基礎学力の定着において、小学校向けのワークシートや参考書を使用すると、「小学校の内容は大丈夫です」「中学生の勉強がしたいです」と消極的になったが、ピノバシリーズのようにゲーム感覚で取り組めるアプリだと、積極的に学習に臨むことができた。

12月からは、デジタル音声教科書を主に活用し、授業の予習を重点的に行ったところ「勉強したところが授業で出てきた」と報告しにきてくれることもあり、本人の学習に対する自信が少しずつ身についてきた様子が見受けられた。

## URAWSSⅡ（1月実施）

＜書き速度＞	用いた手段	入力方法	書いた文字／1分間の書字速度
書き課題	手書き	手書き	71字／23字
書きの介入課題	iPad	フリック入力	91字／30字

書き速度評価としては同じ結果となったが、書いた文字数（1分間の書字速度）においては、フリック入力の方が文字数は多くなっている。しかし、書き写しの際に、読めない漢字が出た場合、手書きの方は見本通りに写せばよいが、フリック入力の場合は、どう入力したら良いのか漢字の読み取りなどに時間がかかった。板書への負担軽減も含め、URAWSSⅡ以外でもフリック入力でのノート作成などを行ったが、結果として、ノートや提出物のiPad（フリック入力）の方は手間がかかると本人が感じたことや、書ける漢字も多くなってきたことで手書きでの取り組みを大事にしたいという思いから、iPad使用まで至らなかった。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ○主観的気づき

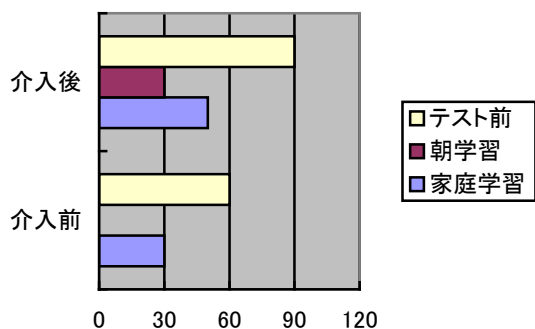
学習意欲への動機づけでは、「分かった」「できた」という成功体験の積み重ねが大切であると再認識することができた。しかし、今回の授業に向けた復習・予習といった学習方法が、定期試験への学習方法とは違ってくるので、なかなか目に見える成果（点数）に繋げることが難しかった。

対象生徒は思うように点数が伸びず、学習に対して自信を失くしている様子もあったが、様々な学習方法を実施していく中で、本人なりに取り組みやすい方法を模索しながら進めることができるようになってきた。また、「授業内容が分かった」という成功体験から学習意欲が少しずつ高まり、「勉強を頑張りたい」

という気持ちが増し、ノートやワークの提出率も少しずつ増え、教科担当の教員からも称賛されることが増えてきている。

### ○エビデンス

テストの点数など数値化される結果としては大きな変容が見られなかったが、家庭学習を含む自主学習の時間が増加傾向にあることから、本人の学習意欲への高まりが見られる。

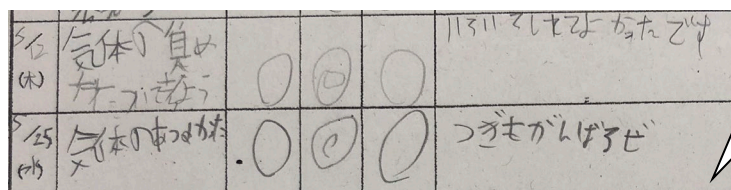


#### <本人による聞き取り調査>

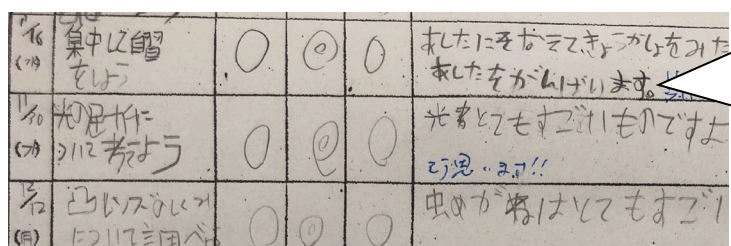
介入前は継続的な自主学習が難しく、家庭学習では20～30分程とのことだった。介入後からは、提出物や課題等にも積極的に取り組めるようになり、家庭学習時間が1時間前後と伸びている。

また、苦手意識のあった板書に対しても意欲的に取り組んでいる。授業中に間に合わなかった部分は、自主的に早朝に登校し、学校で取り組んでいる。

#### <授業振り返りシートの変容>



介入前は抽象的な内容が多かった。  
例)「いろいろ知れてよかった」  
「次も頑張る」



介入後は授業内容を含めた感想などが書かれている。  
例)「明日に備えて教科書を見て、明日も頑張ります」  
「光はすごい」「虫眼鏡はすごい」など

4月当初と比較すると、学習支援の介入後からは授業内容を含めた感想が書けるようになってきている。また、iPad学習で重点的に予習を行った11月には、家庭学習への意欲を示す内容記載があった。

### ○その他エピソード

はじめ、学習補填や代替手段としてiPadを活用していたが、途中から”iPad=勉強”というイメージが定着し過ぎたため、本人にとって気持ちの負担になることがあった。一度、「学習から離れてiPadを自由に使ってみよう」と指示したところ、自分が好きなラーメン屋のマップやラーメンミニレポートをメモ帳やパワーポイントで作成するなど、クリエイティブに使いこなす場面があった。

iPadは代替手段としてだけでなく、得意なことや好きなことを伸ばしていくツールとして、周りの反応を気にせず、実生活や学級でも積極的に使えるようになってほしいと改めて感じさせられた。本人が自分の特性を受け入れ、自分に合った代替手段を選択したり、配慮申請ができるようになってきたりすることが大切なと同時に、周りを気にしてiPadをクラスで活用できないという現状から、通常学級生徒への理解を促していく重要性を再認識させられた。

通級指導教室の振り返りのワークシートでは、目標を書くことに消極的で空欄のときもあったが、最近では学習目標を積極的に書くようになってきている。継続的な学習習慣を身に付け、成果（点数）だけでなく、今までの努力や過程を自分自身で認められるようになり、更に自信をもって取り組み続けていくことを期待する。

<ワークシート一部抜粋>

Goal 改善すること/目標	し	え	て	い	く	し	え	す	る
-------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

(内容)「家で復習をする」

次の2週間に向けて...

Keep 継続して頑張ること	し	え	て	い	く	し	え	す	る
Goal 改善すること/目標	か	っ	こ	う	に	け	た	く	す

(内容)「集中して授業を受ける」、「学校に早く来てワークを進める」